【授業科目】産業看護活動論　　Occupational Health Nursing

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
後藤 由紀、大谷 喜美江、佐藤 優子	3年次 前 期	選 択	2	30	講 義	あり	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方）及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／労働が健康に与える影響を踏まえ、産業保健師が学際的なチームの一員として、事業者が労働者の協力のもとで産業保健の目的を達成できるように支援するための基本的な知識と産業看護の専門性を発揮した支援・役割について講義および演習で学習する。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／事前学習および授業からの質問については、公開にて回答する。ミニレポートやグループワークについては、全体の総評コメントを公開する。
実務経験に関する授業内容	保健師の臨床経験をもつ教員が、産業看護職として必要な産業看護の技術について、教科書、動画等の資料・教材および演習を交えながら指導していく科目である
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から看護の役割を考え、看護を実践することができる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達すべき目標）	①様々な産業保健活動とそれらの事業での産業保健師の役割を述べることができる ②産業保健チームの中で産業保健師が連携する専門職の役割を学び、望ましい連携のあり方を考えることができる ③働く人、集団、組織のアセスメントと支援の展開方法を習得することができる ④質の高い産業保健活動を行うための産業看護職の役割を考え、表現することができる
時間外学習に必要な 内容・時間	第 1～15 回事前学習：指定の教科書を事前に読んでおく。（各 30 分） 第 2,3 回事前学習：事例を読み、情報を整理し、アセスメント方法、課題抽出の考え方を整理しておく（60 分） 第 8,9 回事前学習：事例を読み、情報を整理し、アセスメント方法、課題抽出の考え方を整理しておく（60 分） 第15回事後学習：講義全体を振り返り、学びを深める。（120分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間／1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間／1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間／1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画		
	第 1 回　産業保健計画における産業看護職の役割/グループワーク I ガイダンス	後藤
	第 2 回　演習①：事業場のアセスメントと健康課題の抽出	佐藤・後藤
	第 3 回　演習①：事業場のアセスメントと健康課題の抽出（発表）	佐藤・後藤
	第 4 回　安全衛生委員会・職場巡視・職場の安全と産業看護職の役割	後藤
	第 5 回　快適職場環境づくり・受動喫煙対策における産業看護職の役割	後藤
	第 6 回　演習②：作業環境測定の実施（測定のデザインとガス検知管による測定）	後藤・大谷・佐藤
	第 7 回　健康診断・労働衛生教育における産業看護職の役割／GW ガイダンス	後藤
	第 8 回　演習③：健診後の保健指導に関する事例検討（アセスメント）	佐藤・後藤・大谷
	第 9 回　演習③：保健指導と保健指導立案（ロールプレイとその学び）	佐藤・後藤・大谷
	第 10 回　疾病管理・救急処置における産業看護職の役割	佐藤
	第 11 回　配慮が必要な人々への支援（女性、高齢者、障がい者支援）	後藤
	第 12 回　メンタルヘルス対策・過重労働対策における産業看護職の役割	後藤
	第 13 回　小規模事業場における産業保健の実際	後藤
	第 14 回　大企業における産業保健・産業看護の実際	後藤
	第 15 回　産業保健のこれから／まとめ	後藤

評価方法 評価基準	定期試験 65%、演習 25%、受講態度 10%		
教科書	日本産業衛生学会産業保健看護部会編：必携産業保健看護－基礎から応用・実践まで(公益財団法人産業医学振興財団) 河野啓子：産業看護学 2024（産業看護学概論で使用したもの）	参考書等	産業看護アセスメントツール（法研） 産業保健マニュアル改訂 7 版（南山堂）
学生への 助言等	図書館に上欄の参考書が揃っているので、学習の参考にしてください。産業看護学概論を踏まえて授業内容を理解してください。自分の周囲にいる働く人びとが具体的にどのような産業保健・産業看護サービスを受けているか、講義の内容と照らし合わせて考えてください。そして、働く人びとに必要な健康支援は何か、それをいかに提供できるかという視点を持ちながら積極的に授業に参加してください。授業中の飲食・教室の出入りおよび携帯電話の取りだしは禁止とします。		